

Annual Activity Report / 2017.4 - 2018.3

2017年度年次報告書

みんなのしあわせが
私のしあわせに



認定NPO法人
地球市民の会

TERRA PEOPLE ASSOCIATION

2017年度 活動のお礼とご挨拶

2017 年度の活動の振り返り

「地球市民運動の新たな広がりをつくる 2017 年度になりました」

1990 年から続けてきたタイの奨学金事業は、2017 年度で終了。3473 人に支援を届けることができました。日本の皆さまからお預かりした「真心」は、確実にタイの農村部の子どもたちを幸せにし、高校、大学へと進学を可能にしました。そして、就職し、お金を稼げるようになった元奨学生たちは、次は反対に奨学金を渡す側に回るようになりました。事業は終わりましたが、確実に地球市民の志を広げることができたと実感しています。

一方で、新たな活動地域として、ミャンマーチン州の調査および事業計画を行いました。

遡ること、2003 年よりアジア最後の「フロンティア」とされるミャンマー事業がスタートしました。私たちの活動は、一方的に与えるのではなく、ともに学ぶ。その理念のもと、シャン州で循環型農業の普及やインフラ整備などに努めてきました。

私たちが伝えたかった「食べ物の作り方」「幸せの作り方」は、多くの人の心に到達し、様々な成果を生むことができ

ました。そして、私たちが考えたのは「幸せ」をさらにミャンマーの違う地域に広げること。シャン州でミャンマー人に伝えた幸せ、逆にミャンマー人と学ぶ中で感じた日本人の幸せ。ミャンマー人・日本人双方の「私」がシャン州でつかんだ幸せを、さらにミャンマーで最も未開発地域のチン州へと広げることでした。シャン州と同じように、人とのご縁もあり、チン州出身の男性は、故郷の発展のために尽くしたいという熱い思いに触れ、日本の NGO として初進出となるチン州での事業をお手伝いすることにしました。チン州では、日本人スタッフが「教える側」に回るのではなく、シャン州で育ったミャンマー人スタッフも、「教える側」に回ります。そして地球市民の会も、シャン州で学んだ循環型社会の創造やインフラ整備のノウハウを、さらにチン州に生かします。シャン州でつかんだ「幸せ」が、ミャンマーのみんなの「幸せ」に。

私たちの「地球市民運動」は、今後、新たな広がりを見せる 2017 年度でした。

目次

- [P.01] 表紙
- [P.02] 2017年度 活動のお礼とご挨拶
- [P.05] 2017年度 事業一覧
- [P.06] ミャンマー事業
- [P.10] タイ・スリランカ事業/奨学金事業
- [P.12] 国内事業
- [P.14] 支援を受けたみなさんからの声
- [P.15] 2017年度 ~活動計算書・貸借対照表・監査報告~
- [P.17] 2018年度 活動方針・ミャンマー事業
- [P.19] タイ・スリランカ事業/奨学金事業/国内事業
- [P.20] 2018年度 予算書(案)・予算明細書(案)
- [P.21] 私たちについて
- [P.22] いろいろなご支援を紹介

スタッフ一覧

佐賀事務局



岩永清邦
(事務局長)



廣瀬伸恵
(事務局次長)



山路健造
(奨学金/タイ・スリランカ事業/広報担当)



諫山由紀子
(ミャンマー事業担当)



神崎涼子
(ミャンマー事業担当)



秀島彩女
(奨学金/国内事業担当)



江口恵美
(会計担当)

ヤンゴン事務所



柴田京子
(プロジェクトマネージャー)



会長 佐藤昭二

人間世界はますます狭くなってきました。

今ここに起っていることが、一瞬にして地球の裏側に情報は走ってしまいます。

大変良いことのようにありますが、非常に危険をはらんでいるようにも思えます。

私たちはこのスピードに追いついていけるのでしょうか。

すでに、「AI」の指示を仰ぎ、町政を図ることを公約にして町長選に打って出た立候補者も現れました。まさに、機械化、スピード化です。この様

な状況の中には必ず「積み残し」「忘れ物」が発生します。

私たち地球市民の会はあえてこの「積み残し」「忘れ物」に目を向け一つひとつ拾い上げ、紡いでゆくことにしたいと思います。

積み残し、忘れ物とは、東南アジア及び日本に古より伝わる「文化」であり「思いやりの心」でありましょう。



理事長 山口久臣

【真の豊かさとは！？】

私が初めてアジアの地(タイ王国の東北部(イサーン))に足を踏み入れたのが1990年でした。地球市民の会の創設者の故、古賀武夫会長とタイ人の親友の故、ジャナロン・メキンタラクラ氏と一緒にしました。私は、物金の貧しさ(極貧)に接したのが、今生でその時が初めてでした。

非常にショックを受けました。その時から“我々に何ができるのか！？何をしなければならないのか！？”を真剣に考える様になり、そこからア

ジアへの国際協力活動が始まって行きました。

その時に親友のジャナロンが教えてくれたことは、“人間は物金が貧しいから心が貧しいわけではない。真に大切なことは心が豊かであることだ！！”と云うことでした。それから私にとっての究極の課題の一つが人間にとっての“真の豊かさ”の追求となりました。

これが、私にとっての人生の活動の原点であります。

タウンジー事務所

鈴木亜香里
(プロジェクトアドミニストレーター)

クン・トゥン・ウイン



サイ・トゥン・エー

クン・ソー・アウン
(センター長)

クン・アウン・チョー



ウ・ザベッタン



ウ・ゾー・レイ



クン・ゾー・ソウ・マウン



マ・モー・モー・トゥエ



マ・キン・スエ・タイ



ナン・キン・ラ



クン・シュエ・トー



コ・モー・セツ

タンボジセンター

マ・ワー・ワー・ライン
(センター長)

ウ・シェイン



ウ・ウイン・シュエ



ウ・ミョー・ミン



クン・ティッ・サン



クン・マウン・ヨー



クン・ソー・タン



ドー・キン・サン・ウー



クン・デッ・トゥン・ナイン



クン・トー・ナイン



マ・デー・ヌー・ピュー

フィールドコーディネーター



事業報告書 Activity Report 2017

ミャンマー

タイ

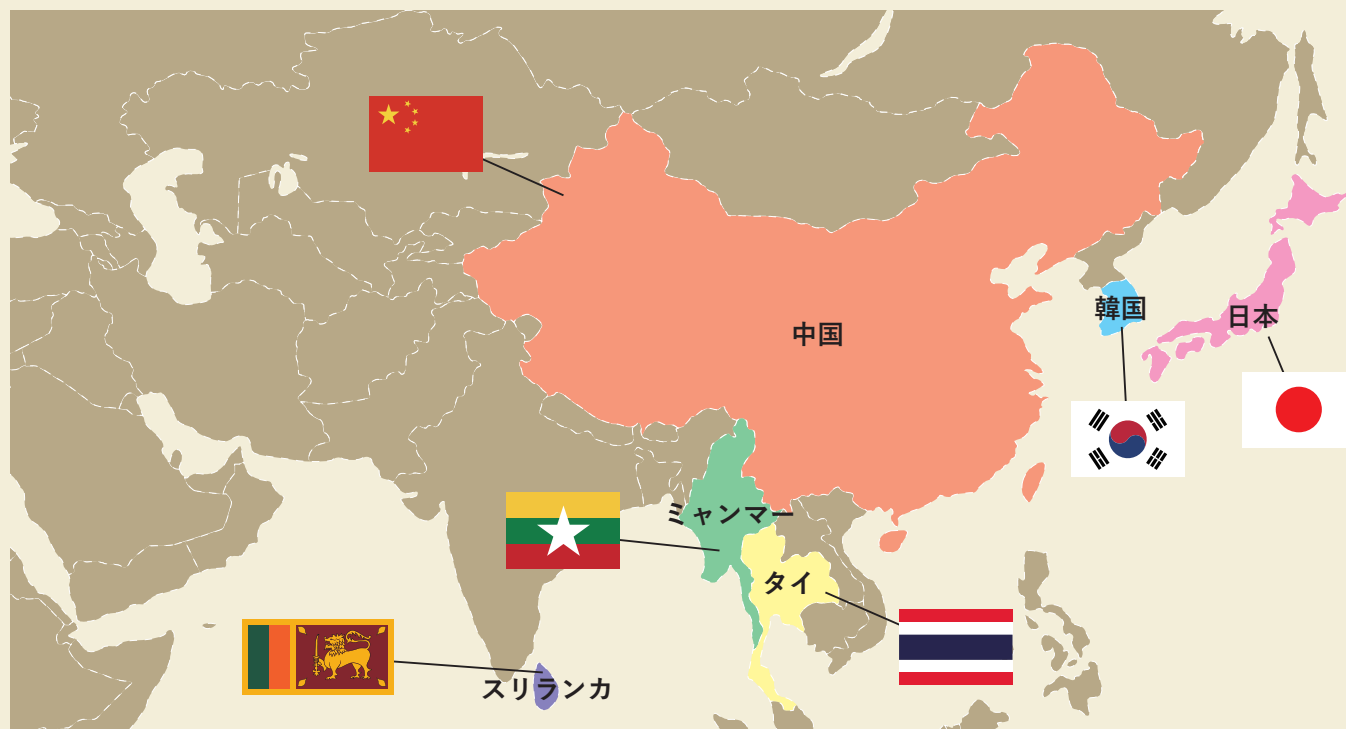
スリランカ

中国

韓国

国内

2017年度事業一覧



	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲、人数	支出額(千円)
ミャンマー事業	農業組合支援(循環型農業の農家組合強化) POS システム導入・販売データ管理事業 (KDDI 財団)	通年	シャン州、タウンジー郡セレー、ナウンカ、ハムシー地区、ヤンゴン	3 人	有機農産物生産者組合 28 名と有機農産物販売店利用者約 300 名	99
	シーサイン農業灌漑設備整備事業 (外務省 NGO 連携無償資金事業)	～9月	シャン州シーサイン郡シーサイン町	6 人	対象地域の農地157ヘクタール	609
	ピンラウン給水設備整備事業 (外務省 NGO 連携無償資金事業)	9月～	シャン州ピンラウン郡イェンミー区、シンタウン村、ティーター村、ティンテツ村、タウンレー村、ワービョン村	4 人	対象地域の住民約11,000名	59,042
	ピンラウンジー保育園建設 (個人寄付者 4 名)	10～3月	シャン州ピンラウン郡ピンラウンジー村	3 人	保育園に通う32名および保護者	533
	チャンキンミャウン準中学校建設 (マイナビ世界こども教育財団)	10～3月	シャン州ピンダヤ郡チャンキンミャウン村	4 人	学校に通う157名および保護者	1,861
	ロンター小学校図書館建設 (三瀬恵美様)	10～3月	シャン州シーサイン郡ロンター村	3 人	学校に通う29名および保護者	200
	モリガを活用した緑化・循環型農村づくり事業 (地球環境基金)	通年	シャン州ピンラウン郡ロイブツ村、ナウンタウン村	4 人	対象地域の住民300名	2,525
	ニャウンシュエ郡アグロフォレストリー普及事業	通年	ニャウンシュエ郡ボーミヤ村、チャウタロンゲ村、チェーボウコン村	3 人	対象地域の住民(2村)約1,000名	2,050
	インレー湖湖畔緑化事業 (地球環境日本基金)	通年	ニャウンシュエ郡チェーボウコン村、ベインネゴン村	4 人	対象地域の住民(2村)約900名	688
	インレー湖環境汚染調査事業 (三井物産環境基金)	通年	ニャウンシュエ郡インレー湖	3 人	インレー湖周辺住民160,000名	387
	チン州調査事業 (外務省 NGO 事業補助金)	12月、2月	チン州ミダ県ミダ町、マトゥッピー郡マトゥッピー町、ライレンビー町	6 人	—	52
	ハトムギ栽培・加工事業	5月～	ニャウンシュエ郡タンボジ農業畜産研修センター	6 人	ハトムギ栽培農家57世帯(約300名)とタンボジセンターのスタッフと高校生12名	330
	物販	通年	佐賀市	2 人	参加者 延べ500名	20
	その他(スタディツアー等)	通年	佐賀市、ニャウン州、ヤンゴン	8 人	約150人	6,401
小 計						74,797
奨学金事業	奨学金支給	通年	タイ：ノンハーン校・大学生 スリランカ：サンガミッタ女子校 ミャンマー：タンボジ青少年育成センター ニャウンシュエ郡タンボジ農業畜産研修センター	5 人	タイ受給生 7名 スリランカ受給生 30名 ミャンマー受給生 87名	3,935
	タイ事業(柳川高校留学生ホームステイ事業)	7～8月	佐賀市、福岡県柳川市	3 人	タイ留学生 8人 ホストファミリー 15人 イベント参加者 120人	703
	その他(ネットワーク設立支援事業、ばーん・たわん)	通年	佐賀市、鹿児島市、鳥栖市	1 人	タイ関係者 20人 イベント参加者 80人 購入者 100人	214
小 計						4,852
国内事業	中山間地域づくり事業	通年	吉野ヶ里町	2 人	吉野ヶ里町、協力者延べ 176名	258
	夏休みキャンプ(ふるさとステイ)	7～8月	佐賀市富士町関屋、三瀬中鶴	2 人	佐賀県、福岡県小学生 95名 富士町/三瀬協力者 21名	780
	日中韓大学生交流事業 TOMODACHI100	1月	佐賀県内各所	2 人	中国人大学生 10名、 韓国人大学生 19名、 協力者 195名(日本人学生も含む)	1,257
	子どもの居場所づくり事業	通年	佐賀市内	2 人	参加者 延べ 300名 協力者 83名	246
	ふるさと納税	通年	全国	2 人	寄付者 447名 協力業者 22社	24,349
	その他(絆伝心、物販、講師派遣事業)	通年	佐賀県内各所	2 人	関係者 421名 聴衆者 2350名	685
小 計						27,575

ミャンマー事業の活動報告



ハトムギの中に混ざったゴミの除去作業

高付加価値化したハトムギを
生産農民の収入向上、自立促進へ

2017年度輸出量 80トン

ハトムギ栽培・加工 時期：2017年5月～現在

シャン州ではトウモロコシが多く生産されていますが、中国の需要に左右されて値段の乱高下が激しく、年によっては栽培コストを下回る価格でしか売れないこともあります。毎年安定した収入が得られるよう、タンボジセンターや周辺の村々でハトムギを生産し、需要が拡大している日本へ輸出するという事業を新たに開始しました。日本企業の指導により適切な栽培・加工技術を習得することができ、付加価値の高い商品を生産することが可能となりました。昨年度は計80トンを輸出。日本で飲料や医薬品の原料として使用されます。
(委託元：(株)メディカルグリーン)

※関連する
主なSDGsの
目標



スタッフの指導のもと種をまく人々

植林と環境に配慮した農業で
インレー湖本来の姿を取り戻す

植林本数 12,715本

インレー湖 湖畔緑化 時期：2017年4月～現在

インレー湖への土砂の大量流入により、湖底が上昇し、人々の生活の足となっているボートの移動可能範囲は年々狭くなっています。また、湖上の水耕栽培や湖畔村で使用される化学肥料や農薬が原因で、湖内の生態系が破壊され、以前と比べて漁獲量は大きく落ち込んでしまいました。湖周辺の環境保全のため、私たちは村の人々と共にモリンガやコーヒー、マンゴーなど12,715本の植林を実施。また、循環型農業研修には87人が参加しました。人々が現状を理解し、“自分たちの手で持続可能な生活環境を作る”という意識を持ってもらうことを目指しています。
(助成元：緑の募金、地球環境日本基金)



湖上の約30地点で水質調査を実施

環境問題が深刻化するインレー湖
学術的な原因分析と対策で環境改善を目指す

インレー湖 環境汚染調査 時期：2017年4月～現在

ミャンマー有数の観光地であり、ユネスコ・エコパークにも指定されているインレー湖。湖上に住む人々の生活様式の変化や急速な観光開発により、水質汚染や森林破壊、ゴミ問題など、環境汚染が年々深刻化しています。私たちは汚染の実態を分析するために、東洋大学と協働で水質調査や土砂流出量の測定などを実施。それらのデータはワークショップで地元住民にも共有し、環境問題への意識が高まるよう取り組んでいます。
(助成元：三井物産環境基金)



全長114mの堰と2.4kmの農業用水路を整備
地元住民による維持管理体制も構築



年間を通して水が確保できる
ようになった人15,745人
農地157ヘクタール

たくさんの時間・人手を要した堰の整備

シーサイン地域 農業灌漑設備

時期：2016年9月～2017年9月

シーサイン地域の5村6区では、住民の90%以上が農業で生計を立てています。彼らの年収は約5～7万円で、周辺地域の半分ほど。その原因のひとつが、灌漑設備がなく、雨季の天水に頼った農業しかできないことでした。夏季には雨が全く降らない日が数ヵ月も続き、作物の栽培が困難となります。

私たちはこの地域で、1年をかけて大規模な堰と水路を整備。地元の人たち自身が今後も設備を管理していけるよう、維持管理委員会を組織し、水使用規則などの策定も行いました。また、同時に実施した農業研修には973人、保健衛生研修には1,218人が参加。多く

の人々に私たちが持つ知識・技術を広げることができました。

2018年3月に開催した落成式には、ミャンマー政府の大臣ら多くの来賓が出席。その様子はテレビや新聞の一面で大々的に報じられ、大きな注目を集めました。

(助成元：外務省NGO連携無償資金協力)



盛大に執り行われた落成式



水不足が深刻な山岳地帯で給水設備の整備を開始
11,000人以上の生活環境改善へ



水源に建設中の貯水タンク

ピンラウン地域 給水設備整備 時期：2017年9月～現在

ピンラウン地域の山岳地帯にある5村1区では、1年のうち乾季と雨季にあたる約9ヵ月間、降水量がほとんどゼロになります。給水設備は整っておらず、人々は雨季になると貯水タンクに雨水を貯め、雨が降らない間はタンクの水を少しずつ使うという不便な生活を続けてきました。トイレや洗濯に水が十分使えず、衛生環境は悪化。さらに、タンクが空になると山道を何時間も歩いて水を汲みに行かなければならず、仕事や勉強の時間が削られているのが現状です。ここに暮らす11,000人以上がいつでも安全な水にアクセスできるよう、水源から各集落までの給水設備の整備を開始しました。また、農業研修や保健衛生研修も実施し、地域の生活水準向上を目指して多面的なアプローチを展開しています。

(助成元：外務省NGO連携無償資金協力)



※持続可能な開発目標(SDGs)は、「誰一人取り残さない」世界の実現を目指す、2030年までの国際目標

ミャンマー事業の活動報告



グリーンヒルでバーコードを読み取っている様子

※関連する
主なSDGsの
目標



農作物の売り上げをデータ化
農家の生産意欲向上につながる

POSシステム導入・販売データ管理

時期：2017年5月～2018年3月

シャン州で長年実施してきた循環型農業研修の受講者は1,000名を超えましたが、手間暇かけて無農薬・無化学肥料の野菜を作っても、高い価格で販売できる場所がありませんでした。そこで2014年、最大都市ヤンゴンにアンテナショップ“グリーンヒル”をオープンし、外国人やミャンマー人富裕層への販売を開始。売れ行きは好調ですが、農家は自分が作った作物がどの程度売れているのか、知る手段がありません。遠隔地にいても売れ行きを把握できるよう、グリーンヒルにPOSシステムを導入し、インターネットでいつでも確認できるようにしました。生産者が自分の作物に責任を持ち、「より品質の高い作物を生産しよう」というモチベーションを高めることができました。また、グリーンヒルのウェブサイト（<http://greenhillmm.com>）を作成し、生産者の様子を消費者に詳しく伝えられるようにもなりました。（助成元：KDDI財団）



植林にはたくさんの地元の人が参加

モリンガの植林で環境破壊にブレーキを
商品化による収入向上・基金創出も実現

モリンガを活用した緑化・循環型農村づくり

時期：2017年4月～2018年3月

森林減少率がアセアン諸国の中でも特に高いミャンマー。炊事用の薪として伐採したり、焼畑をする人がまだ多くいます。この状況を変えるため、私たちは“ミラクルツリー（奇跡の木）”と呼ばれるモリンガに着目。ピンラウン地域でモリンガ1万本を植林し、葉は乾燥させて茶葉やパウダーに、種からはオイルを絞って商品化しました。その収益の一部は緑化基金として蓄え、今後も現地の人々が継続する植林活動に使用されます。環境研修によって人々の意識が変わり、植林の重要性について理解を深めてもらえたほか、収入向上にもつながりました。「地球上の可食植物の中で最も高い栄養素を含んでいる」と言われるモリンガの商品は、ヤンゴンで大人気です！（助成元：地球環境基金）

植林したモリンガの本数
10,000本





ピンラウンジー保育園の落成式

保育園園舎、小学校図書館、準中学校校舎を建設

学校・保育園建設

時期：2017年12月～2018年3月

地元住民による多くの力添えがあり、保育園1舎、小学校図書館1棟、準中学校1舎を建設することができました。準中学校には電気が届いていなかったため、近くを流れる小川に小水力発電機も設置。先生たちは「良い環境が整ったので、通ってくる子どもたちの数は以前よりも増えるだろう」と喜びを語りました。

建設実績（カッコ内は支援者様）

- ・ピンラウンジー保育園
（唐澤利夫様、藤崎博喜様、富野ともえ様、東田優子様）
- ・ロンター小学校図書館（三瀬恵美様）
- ・チャンキンミャウン準中学校（マイナビ世界こども教育財団様）

教育環境が改善された
子どもたち**218人**



担当者コメント



柴田 京子（ミャンマー国代表・プロジェクトマネージャー）

私にとって2017年度は変化と感謝の年でした。変化というのは、ミャンマー国内でさらに支援が必要な地・チン州の調査を進め、新しい事業の可能性を探りました。TPAにとっても新しい挑戦になるかと思います。感謝というのは、そんな新しい事業へ目を向けながらもシャン州での事業も粛々と進む中で、きちんとシャン州の事業を取り仕切って実施してくれる仲間たちへの感謝です。2018年度もミャンマーチームとして一つになって頑張ります！



マ・モー・モー・トゥエ（タウンジー事務所スタッフ）

私は1年間、シーサイン地域での農業堰整備事業を担当しました。想定外の出来事もたくさんありましたが、地元住民の協力と建設作業員たちの頑張りにより、無事に完了することができました。これから地域の農業が活性化していくことが何よりの楽しみです。いつもTPAの活動を支えてくださっている日本の皆さんに、本当に感謝しています。



神崎 涼子（佐賀事務局調整員）

入職して最初の1年、毎日新しい学びがあり、また、日本とは状況が全く異なるミャンマーで事業を進めていくことの難しさも多々感じました。これからチン州という新しい地に活動の場が広がりますが、今後も確かな目標や信念をもって進んでいきたいと思っています。シャン州からチン州へのミャンマー人同士の技術移転を必ず成功させたいです！

タイ・スリランカ事業／奨学金事業の活動報告



1990年から続けたタイ奨学金を終了
元奨学生が私費奨学金を渡す例も

27年間で支援した学生の数 3,473人

奨学金 時期：1990年5月～2018年3月

地球市民の会の奨学金事業では、1990年から続けてきたタイ東北部における奨学金を終了しました。

「日本人はバナナか(見た目は黄色人種なのに、欧米＝白人ばかり見ているという揶揄)」という、タイのソーシャルワーカー、ジャンロン氏(故人)の言葉をきっかけに始まったタイ事業。当会にとっても国際協力事業を始めたきっかけであり、中でも奨学金事業は初期の地球市民の会の海外事業を象徴する事業でした。

また、手紙のやりとりやさとおやツアーによる現地訪問など、さとおやさん(支援者)と奨学生をつなぐ「心の交流」が続いてきました。

このたび、タイの経済発展に伴い、2017年度の奨学金支給を持って、事業終了を決めました。さとおやさん達のご支援のおかげで、これまでに3473人の子どもたちに、学校に通うための教育資金を提供することができました。

2018年3月に最後のさとおやツアーとして、ウドンタニ県を訪問。最後に奨学金を支給していたノンハーン校と、長年支給を続けたクーキャオ校を訪問し、奨学金事業を担当したスラポン先生を始め、関係者の皆さまに感謝の思いをお伝えしてきました。

現地の聞き取りでは、バンコクや海外で働く元奨学生が、村に帰った際に後輩たちに今度は奨学金を渡す側に回っているという例も聞きました。本当に長年のご支援をいただき、ありがとうございました。

スリランカとミャンマーの奨学金につきましては、今後も継続していきますので、こちらも変わらぬご支援をよろしくお願いします。

スラポン先生よりさとおやの皆様へ



私たちの生徒を支援していただき、本当にありがとうございました。長年、クーキャオ校だけでなく、ノンハーン校も支援していただきました。奨学金が終わることは、私たちの関係が途切れることを意味するものではありません。交流など何か私たちにできることがあれば、教えてください。本当にありがとうございました。

※関連する
主なSDGsの
目標



担当者コメント

山路 健造 (タイ・スリランカ事業／奨学金担当)

2017年度、タイ・スリランカ事業/奨学金事業は、大きな転機を迎えました。地球市民の会の象徴の事業だったタイ奨学金の終了が決定。ただ、1987年から続けてきたタイの支援のご縁は切りたくない。その一心で、ホームステイ事業「Be Family プロジェクト」や、サワディー佐賀の設立など、新規事業を立ち上げることができました。一方で、ミャンマーの奨学金視察に行き、恵まれない経済状況を目の当たりにしたことで、より日本でさとおやさんを集めたい、という思いを強くすることができました。

2018年度は、2年に一度のスリランカ奨学生の招へい事業も実施しますし、さらなる新規事業の立案も予定しています。より多くの人に「幸せの種」を届けられるように、今後もフル回転で事業に取り組みたいです。





タイ人同士の友好イベント 3回でのべ80人参加



佐賀県内在住タイ人のネットワーク を設立、交流イベントや翻訳依頼、通訳派遣など

佐賀在住タイ人ネットワーク 「サワディー佐賀」の設立支援 時期：2018年1月～現在

現在、佐賀県内ではタイ人観光客が増加しています。理由は、タイのドラマや映画の誘致に成功したこと。もともと300人ほどしか来ていなかったのが、今では年間に5000人を超えるタイ人観光客が訪れるようになりました。このような文化交流の促進により2017年10月、佐賀県が主催したのが「タイフェア in SAGA2017」でした。それを機にタイ事業で支援して設立したのが、佐賀在住タイ人のネットワーク「サワディー佐賀」です。

大学が違ったらお互いを知らない、なかなかタイ語を話せる機会がない。そんな声を聞いたことから始めた活動です。サワディーでは、定期的にタイ人やタイが好きの方が集まって交流イベントを開いていきます。既に3回開催され、のべ80人以上が参加してくれました。観光パンフレットの翻訳業務の依頼もいただいていますし、今後通訳などの派遣も行っていく予定です。今後、タイをモデルに、ベトナムやフィリピンなど他国のネットワーク設立のお手伝いもしていきたいと考えています。

タイ人にとって「住んで良し、訪れて良し」の佐賀県を目指して。奨学金事業に代わる新たなタイ支援の形をぜひ応援ください。



過去最長40日間の ホームステイで 8人受け入れ



柳川高校タイ人留学生ホームステイ事業 寮閉鎖も日本で学べる環境を

Be Family プロジェクト 時期：2017年7月～現在

2017年度より、タイ南部ナコーンシータンマラート市に中学校を開いた柳川高校(福岡県)とのプロジェクトを開始しています。その第1弾として始めたのが、同校に留学するタイ人生徒のホームステイ事業「Be Family プロジェクト」です。

柳川高校は2016年5月に柳川高校附属タイ中学校を設立。中学卒業後に柳川高校へ留学できるシステムをつくられました。中学校を運営するタイ日人材育成協会が柳川高校に留学生を派遣。人材育成協会のテムラック・チャオ会長より、「留学生たちは夏休みに寮が閉鎖され、タイに帰国せざるを得ない。帰国するには渡航費もかかるし、日本語を忘れてしまう」と相談があり、日本に残ることができるプログラムを実施しました。

ホームステイ事業は「将来のビジネスパートナーと家族同然の関係性を築こう」として実施。留学生たちは将来、日本語を学んで日系企業への就職を目指しています。また日本も人口減による市場の縮小で、将来、海外展開も視野に入れる時代が来るでしょう。その将来のビジネスパートナーになるうる留学生たちと関係を築こう、という趣旨で実施しました。

期間中は、午前中はヒューマンアカデミー日本語学校(佐賀市)で日本語の授業を受け、昼からは各家庭で仕事のお手伝いをしてもらいました。また、週末ごとに、日本の文化体験や、佐賀県内の観光地と一緒にいくなどの交流もしました。最後はタイフェスティバルと題し、水かけ祭りを体験したり、一緒にタイ料理を作ったりなどのイベントも実施しました。

中にはホームシックになった生徒もいましたが、日本の食事が合わなかったり、ホストファミリーの皆さまにご迷惑をおかけしたこともありました。この40日間で日本語は上達し、マナーが向上したという評価も聞かれました。2018年度も実施予定ですので、また多くの方のご支援をよろしくお願いします。

国内事業の活動報告



※関連する
主なSDGsの
目標



誰も孤立しない地域への体制づくりが始まりました

居場所を訪れた 子どもの数 300名

子どもの居場所づくり事業 時期：2017年8月～現在

2017 年度の新規事業として、佐賀市内の校区を対象に子どもの居場所を佐賀市と連携して活動を行ってきました。

昨今、子どもの貧困の問題や昔のように遊びに行く場所が少なく、地域内や子ども同士でも関係の希薄化が危ぶまれています。そこで、地域の子どもは地域で育てることを目標に、地域の子ども支援に関心のある方やまちづくりを行っている方々と実行委員会をつくり、地域＋学校＋行政＋NPO の連携事業を展開しました。

まず、地域の居場所をつくるために地域内にある空き家を借りて月1 回程度の居場所を行いました。地元の大學生の協力のもと、子どもたちは自由に遊びに来て、勉強をしたり、ゲームをしたり、食事をしたりなど思い思いの時間を過ごしています。

放課後、なかなか集まる場所がなかったり、普段、相談できる場所がないような子どもにも、地域で受け入れる居場所の基盤ができました。



地域主体のまちづくり会社設立支援をしました

参加者 178名

オリーブの森事業 時期：2014年4月～現在

里山保全の目的で、福岡や佐賀県内からの参加者と一緒にオリーブを栽培しています。今年は、オリーブの実が少しですが、収穫できるまでになりました。また、今後、地元の方々中心で活動できるように、地域主体のまちづくり会社を設立して、収穫したものを加工、販売までの基盤が出来つつあります。



地域の賑わいを創出しました

佐賀県内、福岡県内から 95名の小学生が参加

ふるさとステイ2017 時期：2012年7月～現在

佐賀市富士町、三瀬で実施している小学生を対象にしているキャンプも怪我や病気などなく、無事に終えることができました。地域の方々にもだいふ、認識やご理解をいただけるようになり、様々なサポート体制のもと、実施させていただいております。

毎年、楽しみにしている子どもたちも多いようで、小学1年生の時から毎年参加している子もいます。地域の方とも仲良くなり、キャンプ以外の時でも訪れる時もあります。

継続的な繋がり創出の目的も少しづつですが、現れてきています。

学生主体の事業計画を実施しました



開始から5年で 日中韓大学生251名 の交流が実現

TOMODACHI 100プロジェクト 時期：2013年～現在

中国から10名、韓国から19名の日本語を話せる大学生が、日本の大学生、佐賀の人たちとの交流を行いました。期間中、ホームステイでは18家族の方々にもご協力をいただき、佐賀大学、企業も含めて多くの方のご支援がありました。

今回が5回目という節目になりましたので、今後は5年間の評価・モニタリングも含めて次回に繋げて行きたいと思います。

10 人や国の不平等をなくそう



17 パートナリシップで目標を達成しよう



地球市民の会の活動を講演させていただきました



766名の方に聴講

講師派遣 時期：2017年4月1日～2018年3月31日

2017年度は、学校や放課後の集まりなど、多くの場所で地球市民の会の活動を紹介させていただく機会をいただきました。

直接、会の活動などを伝えることにより、多くの方々に把握・理解を得ていただくことができています。

行政、企業、NPOの災害支援協議会の構築に向けて話し合いが始まりました

震災支援

行政、企業、NPOの災害支援協議会の構築に向けて話し合いが始まりました。

今後、起こり得る佐賀での災害に向けて、「自助・共助・公助」の視点で、県全体で支援に取り組めるように、ネットワーク作りを行っています。それぞれのセクターが有事の際に何ができるか？役割分担、また、ネットワークの形について定期的に集まり、協議を続けています。

11 住み続けられるまちづくりを



担当者コメント



岩永清邦
(事務局長)



秀島彩女
(子どもの居場所コーディネーター)

2017年度より佐賀市、大学、地域の方と連携して実施しています、子どもの居場所づくり事業。

数回行いました居場所では、私が小さい時に触れ合ってきた大人と子どもの交流の場所がありました。小さい時に地域での思い出をたくさん増やすことが地域への愛着につながることに非常に大きなことではないかと思います。

また、学校や家庭以外でも遊んだり、相談できる場所があることが継続的なまちづくりに必要な要素の一つであると感じて活動を今後も継続していきます。



ミャンマー/チャンキンミヤウン村

ウ・テイン・ウィンさん

私たちの村は山の上にあるので、平地よりも学校建設のコストがかなり高くなり、今まで誰も支援に来てくれませんでした。今回校舎を建ててもらうことができ、本当に嬉しいです。村で基金を集めるなど工夫し、今後は自分たちだけで維持管理ができるようにしていきたいと思います。



ミャンマー/3か月農業研修参加者

ナン・カン・ラさん

今までは農業や化学肥料をたくさん使っていて、どんどん土が悪くなっていくことに悩んでいました。今回この研修に来て、土着菌やボカシなどの作り方・使い方を学ぶことができました。村に戻ったら、TPAから学んだ循環型農業を実践し、周りにも広めたいです。



ミャンマー/環境ワークショップ参加者

チョー・ミン・タンさん

私はこれまで、インレー湖の環境破壊について深く考えたことはありませんでした。水質調査の結果を聞いて、近い将来インレー湖がなくなってしまうかもしれないという危機感を持ちました。普段の生活に少し注意するだけでも環境保全につながると思ったので、ぜひ実践したいと思います。



タイ/元奨学生

ロンアー・ロン・マタラーさん

クーキャオ校に通っていた2004年ごろ、地球市民の会の奨学金を受けていました。貧しい農家の家庭に生まれたので、もしあの時奨学金がなければ、弟と妹と一緒に勉強を受けることはできていませんでした。今ではこうして、ノンハーン校（2018年3月の終了まで奨学金事業を実施した学校）で化学の先生として働いています。奨学金事業は、両親たちも子どもに教育を受けさせることができ、本当に素晴らしい事業だったと思います。

支援を届けた みなさんからの声



スリランカ/シシヨダヤ奨学生

カビディヤ・ニラクシ・ペッタワドゥさん

地球市民の会は本当に優しい団体です！ 私たちのために、多くの支援をいただき、私は教育のために奨学金を使いました。（2016年には招へい事業に参加し）日本から多くのことを学ぶことができました。本当にありがとうございました。



ミャンマー/タンボジ奨学生9年生

マ・メー・ダズィン・ティンさん

お父さんを5年生の時に亡くし、お母さんも心臓が悪く、2人の双子の妹はおじさんが育ててくれている生活状況です。「いろんな進路が見えるから」と受験を勧められ、よく分からないまま受験しましたが、本当にタンボジセンターに来て、「道が開けた」と思います。夢は、道路を作るエンジニアになること。妹たちにも教育を受けさせ、お母さんが心豊かに暮らせるようにしてあげたいです。

2017年度～活動計算書・貸借対照表・監査報告～

活動計算書 (税込)(単位:円)
自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 30 年 3 月 1 日

【経常収益】	
【受取会費】	
正会員受取会費	1,966,000
学生会員受取会費	12,000
賛助寄附受取会費	415,000
特別賛助寄附受取会費	60,000
団体賛助寄附受取会費	470,000
購読会員受取会費	69,000
過年度分受取会費	27,000
【受取会費】合計	3,019,000
【受取寄附金】	
本部寄附金収入	1,015,120
国内寄附金収入	24,268,800
奨学金寄附金収入	4,438,086
タイ・スリランカ寄附金収入	7,971
ミャンマー寄附金収入	3,106,842
【受取寄附金】合計	32,836,819
【受取助成金】	
国内助成金収入	345,000
タイ・スリランカ助成金収入	54,000
ミャンマー助成金収入	92,324,224
【受取助成金】合計	92,723,224
【受取委託金】	
国内委託金収入	1,996,362
タイ・スリランカ委託金収入	771,500
ミャンマー委託金収入	540,000
【受取委託金】合計	3,307,862
【事業収入】	
国内事業収入	3,112,495
タイ・スリランカ事業収入	136,966
ミャンマー事業収入	1,148,187
【事業収入】合計	4,397,648
【その他収入】	
受取利息	138
為替差益	104
雑収益	1,308
【その他収入】合計	1,550
経常収益計	136,286,103
【経常費用】	
【事業費】	
国内事業支出	27,575,510
奨学金事業支出	3,935,927
タイ・スリランカ事業支出	917,082
ミャンマー事業支出	74,797,316
(直接事業支出額)	107,225,835
給料 手当(事業)	13,552,841
法定福利費(事業)	1,233,172
通信運搬費(事業)	206,077
印刷出版費(事業)	313,614
水道光熱費(事業)	139,064
賃借料(事業)	159,520
地代・家賃(事業)	518,437
支払手数料(事業)	239,351
事業費計	123,587,911
【管理費】	
給料手当	3,731,698
役員報酬	1,200,000
法定福利費	432,038
福利厚生費	740,282
印刷製本費	158,225
会議費	12,428
旅費交通費	389,488
研修費	10,500
通信運搬費	103,972
消耗品費	138,394
水道光熱費	70,160
地代家賃	261,563
賃借料	112,880
新聞図書費	3,240
保険料	49,020
諸会費	157,000
租税公課	281,780
支払手数料	110,606
雑費	3,405
管理費計	7,966,679
経常費用計	131,554,590
当期経常増減額	4,731,513
【経常外収益】	
ミャンマー未使用資金戻入益	22,197,653
経常外収益計	22,197,653
【経常外費用】	
ミャンマー未使用資金繰入損	48,217,280
経常外費用計	48,217,280
《正味財産増減の部》	
税引前当期正味財産増減額	-21,288,114
法人税、住民税及び事業税	81,000
当期正味財産増減額	-21,369,114
前期繰越正味財産額	85,256,450
次期繰越正味財産額	63,887,336

貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日現在 (税込)(単位:円)

科目	前期末	今期末
《資産の部》		
【流動資産】		
現金	109,057	142,221
普通預金	37,235,149	41,900,063
現金・預金計	37,344,206	42,042,284
未収金	172,800	307,734
売上債権計	172,800	307,734
ミャンマー未使用資金	48,217,280	22,197,653
流動資産合計	85,734,286	64,547,671
【固定資産】		
出資金	2,000,000	2,000,000
固定資産合計	2,000,000	2,000,000
資産合計	87,734,286	66,547,671
《負債・正味財産の部》		
【流動負債】		
未払金	860,864	1,169,337
前受金	1,282,506	1,116,000
預り金	239,429	374,998
仮受金	95,037	0
流動負債計	2,477,836	2,660,335
負債合計	2,477,836	2,660,335
【正味財産】		
前期繰越正味財産額	44,762,685	85,256,450
当期正味財産増減額	40,493,765	-21,369,114
正味財産計	85,256,450	63,887,336
正味財産の部合計	85,256,450	63,887,336
負債・正味財産合計	87,734,286	66,547,671

監査報告書

平成 30 年 5 月 7 日

特定非営利活動法人地球市民の会
理事長 山口 久臣 殿

監事 田中進
監事 小原嘉文

私は、特定非営利活動促進法第 18 条の規定に基づき、2017 年度（2017 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日まで）の特定非営利活動法人地球市民の会の業務及び財産の状況について監査を実施いたしました。

監査の方法は、重要な会議の議事録その他の重要資料を閲覧するほか理事から事業の報告を聴取し、また財産の状況については証憑書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行いました。

監査の結果、法人の業務の執行に関しては法令及び定款に違反する重大な事実はなく、2017 年度の特定非営利活動法人地球市民の会の財産の状況は適正なものとして認められます。

以上



認定NPO法人国際協力NGOセンターより、2015年にASC2012の認証を受けました

健全な組織として評価する非営利組織評価センターより、2017年に非営利組織評価の認証を受けました

A photograph of two women in a greenhouse, smiling and holding harvested asparagus. The woman on the left wears a straw hat with a colorful striped band and a pink floral patterned top. The woman on the right wears a straw hat with a floral band and a bright pink t-shirt. They are holding several long, green asparagus spears. In the background, other people are visible working in the greenhouse, which is filled with rows of green plants. The text "活動計画(案)" is written in white, followed by "Activity Plan 2018" and "2018.4.1~2019.3.31" in a larger white font.

活動計画(案)
Activity Plan 2018
2018.4.1~2019.3.31

2018年度の活動方針

35周年の節目に立ってSDGs（持続可能な開発へ向けてのゴール17＝持続可能な地球の地域づくりのための目標17）が、2015年～2030年で世界的に始まっています。これは、約72億人の地球の人類が、環境と経済と社会のあらゆる視点や立場から総合的に取り組むべき課題と目標なのです。

地球市民の会も設立35周年の節目に立って、会のコンセプト&ミッション（目的と社会的使命）である「地球市民運動」を再確認しつ

つ、次の様な活動方針と目標をかかげて、今年度の事業・活動計画を進めて行きます。皆様方のご理解と参加・参画とご協力、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



ミャンマー事業

農業組合の組織と運営

時期：通年
タンボジ、ナウンカ、セレーの3箇所に組織したモデル組合の運営
生産者と消費者をつなぐ販売体制の維持管理

タンボジ農業畜産研修センター

時期：通年
グリーンヒルとの連携、収入向上
企業との連携によるハトムギ栽培・加工事業の拡大



ナウンカ村落開発センター

時期：通年
農民対象の短期～長期研修の実施
モデルファームの充実、グリーンヒルとの連携、収入向上

ピンラウン飲料水給水事業

時期：～9月
シャン州ピンラウン地域での飲料水給水設備整備



NEW

ライレンピー循環型農畜産業普及センター

時期：10月～
2018年度より、ミャンマーで最も貧しいチン州へと活動の場を広げます。大多数の人が焼畑農業で生計を立てていますが、収量が非常に少なく、販売して現金収入を得ることはもちろんのこと、家族が食べる量すら確保することが厳しい状況です。シャン州で15年間続けてきた循環型農業の普及をチン州でも始めるために、活動拠点となる研修センターを建設します。

ミャンマー事業

NEW

ナウンカ農業用水給水事業

時期 : 9 月～

シャン州ナウンカ地域では、灌漑設備が整っていないため天水に頼った農業を続けてきました。栽培できる時期や作物の種類に限られるため、収入を増やすことが難しい状況です。地域内 280 ヘクタール以上の農地で年間を通して作物栽培が可能になるよう、大規模な灌漑設備の整備を行います。

NEW

ナウンタヤ飲料水給水事業

時期 : 6 月～ 3 月

シャン州ナウンタヤ地域での飲料水給水設備整備

タンボジ寮の運営、高校生支援

時期 : 通年

高校生 16 名の支援・農村リーダーの育成

NEW

学校校舎建設・修繕事業

時期 : 11 月～ 3 月

チン州にあるエダヤ小学校は、壁や床に穴が開くなど老朽化が進んでいます。雨季になるとその穴から雨が吹き込むため、子供たちはびしょ濡れになりながら授業を受けなければなりません。安心・安全な環境で学べるよう、村の人たちと一緒に校舎の修繕を行います。



インレー湖湖畔緑化事業

時期 : 通年

シャン州チェーパウコン村・ペインネゴン村での植林、アグロフォレストリー技術の普及と実践

インレー湖の環境汚染調査

時期 : 通年

インレー湖の環境悪化要因の分析、環境教育ワークショップの開催(東洋大学との協働事業)

NEW

ライレンピーアグロフォレストリー事業

時期 : 時期 : 5 月～

焼畑で失われた森林を取り戻し、さらに現金収入が得られるよう、コーヒーなど換金作物の植林を進めます。日本から専門家を派遣して栽培指導を行い、高品質な作物を生産することを目指します。



交流事業

時期 : 9 月、3 月

TPA スタディツアー実施、鹿児島大学・佐賀大学・東洋大学ツアーの受入など

搾油ビジネス事業

時期 : 通年

モリンガやピーナッツなどの農産物の搾油・販売

タイ・スリランカ事業/奨学金事業

NEW

志学生プロジェクト立案

時期：通年

27 年間支援した奨学金事業に代わるタイ支援として、農村部の学生が日本へ留学しながら介護施設で働き、介護技術を学ぶ事業の立案を進めます。高齢化が進むタイに日本の高い介護技術を還元するとともに、人手不足が進む日本の介護業界の担い手育成も進めます。



Be Family プロジェクト

時期：8 月

柳川高校のタイ人留学生たちが、日本語を学びながらホームステイをして、「日本の家族」をつくるための事業

奨学金

時期：通年

スリランカ・ミャンマーの中学・高校生・への奨学金支給継続

国内事業

子どもの居場所づくり

時期：通年

佐賀市と連携して、居場所のモデル校区を目指し実施します。地域の方や大学生に協力をいただき、誰もが来れる居場所を月 1 回程度行っていきます。また、平日も夕方に 1 ヶ月に数回程度、子どもが自由に行き来できる場所も展開していきます。

また、県内の CSO、佐賀県とも連携して、県全体で居場所の展開および既存の居場所のサポートも行っています。佐賀県が子ども支援の先進地となるよう他業種他団体との連携強化も図ります。

佐賀市中山間地域づくり事業

時期：通年

芭木もめん、農泊推進事業(空き家活用および移住支援事業)

協働事業

行政からの委託事業の実施

佐賀インターナショナル・ゲストハウス HAGAKURE と事業連携

資金調達

ふるさと納税、Syncable、お宝エイドなど、様々な手法を活用して資金調達を行い、新たに 500 名関わっていただく方々を増やします。

講師派遣



チャリティショップ

時期：通年

古着をご寄付いただき、その益金をアジアの子どもたちの教育基金に充てさせていただいたチャリティショップは、バザーの開催などでお求めやすい形にパワーアップします！

カタランカ Cross Asia 2018

時期：9 月

2 年に一度、スリランカの奨学生が日本を訪れて交流する「カタランカ～Cross Asia」は今年が開催の年です。農泊体験や幼稚園訪問などの例年のコースに加え、スリランカで起こる社会課題の解決方法を探る視察やワークショップも企画します。

サワディー佐賀運営支援

時期：通年

佐賀県内に住むタイ人ネットワーク「サワディー佐賀」の運営を支援します。

スタディツアー

時期：12 月

新たにタイ南部へのスタディツアーを企画予定です。



TOMODACHI 100 プロジェクト

時期：1 月～2 月

これまで 5 年間実施してきた当事業もテーマを変えて実施します。今回のテーマは「SDGs」を学ぶために佐賀へ大学生を招聘します。例年招聘している韓国、中国に加え、他国からも招聘予定です。将来、SDGs を解決できる人材育成を目的とします。

オリーブの森プロジェクト

時期：通年

耕作放棄地を活用した里山保全事業。福岡、佐賀からのオーナーを募り、オリーブ畑全体の管理や栽培を行っています。



2018年度 予算書(案)・予算明細書(案)

平成 30 年 (2018 年) 度 活動予算書 (案)
自 平成 30 年 (2018 年) 4 月 1 日 至 平成 31 年 (2019 年) 3 月 31 日

【経常収入の部】	29 年度決算	30 年度予算
①本部収入	4,035,670	10,223,825
会費収入	3,019,000	3,300,000
寄附金収入	1,015,120	300,000
その他収入	1,550	0
前期繰越正味財産額		6,623,825
②国内事業収入	29,722,657	42,904,163
寄附金収入	24,268,800	40,100,000
補助金・助成金等収入	345,000	200,000
委託金収入	1,996,362	2,244,163
事業収入	3,112,495	360,000
前期繰越正味財産額		0
③奨学金事業収入	5,408,523	8,646,836
寄付金収入	4,446,057	4,278,000
助成金収入	54,000	400,000
委託金収入	771,500	0
事業収入	136,966	2,120,000
前期繰越正味財産額		1,848,836
④ミャンマー事業収入	97,119,253	184,060,675
寄付金収入	3,106,842	500,000
助成金収入	92,324,224	126,396,000
委託金収入	540,000	1,200,000
事業収入	1,148,187	550,000
前期繰越正味財産額		55,414,675
経常収入合計	136,286,103	245,835,499

【経常支出の部】		
①国内管理費	7,966,679	8,060,000
直接事業費	0	
人件費	6,104,018	4,560,000
その他管理費	1,862,661	3,500,000
収支差額	-3,931,009	2,163,825
②国内事業費	30,852,096	40,607,920
直接事業費	27,575,510	35,959,920
人件費	2,763,831	3,648,000
その他管理費	512,755	1,000,000
収支差額	-1,129,439	2,296,243
③奨学金事業費	8,283,709	9,563,576
直接事業費	4,853,009	4,923,576
人件費	2,898,978	3,840,000
その他管理費	531,722	800,000
収支差額	-2,875,186	-916,740
④ミャンマー事業費	84,452,106	168,062,653
直接事業費	74,797,316	151,102,653
人件費	9,123,204	15,960,000
その他管理費	531,586	1,000,000
収支差額	12,667,147	15,998,022
経常支出合計	131,554,590	226,294,149
当期経常収支差額	4,731,513	19,541,350
ミャンマー未使用資金戻入益	22,197,653	0
ミャンマー未使用資金繰入損	48,217,280	0
寄付物品売却損	0	0
法人税、住民税及び事業税	81,000	81,000
当期正味財産増減額	-21,369,114	19,460,350
前期繰越正味財産額	85,256,450	0
次期繰越正味財産額	63,887,336	19,460,350

平成 30 年度 (2018 年度) 予算明細 (案)	
本部	収入合計 10,223,825
	①会費収入 3,300,000
	②寄付金収入 300,000
	③その他の収入 0
	④前期繰越金 6,623,825
国内事業	収入合計 42,904,163
	①寄付金収入 40,100,000
	絆伝心 100,000
	ふるさと寄附金 40,000,000
	②助成金収入 200,000
	オリーブ事業 200,000
	③委託金収入 2,244,163
	佐賀県協力隊を育てる会事務局 50,000
	子どもの居場所づくり事業 2,194,163
	④自主事業収入 360,000
	TOMODACHI 100 プロジェクト 360,000
	⑤前期繰越金 0
奨学金事業	収入合計 8,646,836
	①寄付金収入 4,278,000
	スリランカ奨学金 480,000
	ミャンマータンボジ奨学金 1,920,000
	ミャンマー・シャン奨学金 1,728,000
	スリランカ寄付金 100,000
	教育基金寄付 50,000
	②委託金収入 0
	③助成金収入 400,000
	④自主事業収入 2,120,000
	タイツアー 630,000
	スリランカ招へい事業 20,000
	チャリティショップ売り上げ 200,000
	物販 50,000
	Be Family 1,220,000
	④前期繰越金 1,848,836
ミャンマー事業	収入合計 184,060,675
	①寄付金収入 500,000
	②助成金収入 126,396,000
	ナウンカ農業用水給水事業 75,000,000
	ライレンビー農業センター事業 40,000,000
	ナウンタヤ飲料水給水事業 1,900,000
	インレー湖環境汚染調査事業 2,336,000
	インレー湖緑化事業 660,000
	ライレンビーアグロフォレストリー事業 4,000,000
	インレー湖緑化事業(2017 年度清算) 1,300,000
	モリंगा事業(2017 年度清算) 700,000
	チン州調査(2017 年度清算) 500,000
	③委託金収入 1,200,000
	④自主事業収入 550,000
	スタディツアー 500,000
	フェアトレード商品販売 50,000
	⑤前期繰越金 55,414,675
全体	収入合計 245,835,499

本部	支出合計 8,060,000
	①事業費 0
	②人件費 4,560,000
	③共通管理費 3,500,000
	収支差額 2,163,825
国内事業	支出合計 40,607,920
	①直接事業費 35,959,920
	TOMODACHI 100 プロジェクト 5,200,000
	オリーブ事業 300,000
	スリランカ招聘、国内イベント等事業費 6,000,000
	子どもの居場所づくり事業 409,920
	ふるさと納税事務管理費等 24,000,000
	絆伝心 50,000
	②直接人件費 3,648,000
	人件費 2,208,000
	嘱託職員 1,440,000
	③共通管理費 1,000,000
	収支差額 2,296,243
奨学金事業	支出合計 9,563,576
	①直接事業費 4,923,576
	スリランカ奨学金 240,000
	ミャンマータンボジ奨学金 1,152,000
	ミャンマー奨学金 1,036,800
	スリランカ現地調整費 120,000
	ミャンマー奨学金現地調整費 556,800
	タイツアー 601,476
	スリランカ招へい事業 20,000
	Be Family 1,196,500
	②直接人件費 3,840,000
	ファンドレイジング・新規・広報 3,840,000
	共通管理費 800,000
	収支差額 -916,740
ミャンマー事業	支出合計 168,062,653
	①直接事業費 151,102,653
	ピンラウン飲料水給水事業 23,000,000
	ナウンカ農業用水給水事業 65,000,000
	ライレンビー農業センター事業 32,000,000
	ナウンタヤ飲料水給水事業 1,700,000
	インレー湖環境汚染調査事業 1,870,000
	インレー湖緑化事業 660,000
	ライレンビーアグロフォレストリー事業 4,000,000
	エダヤ小学校校舎修繕事業 250,000
	スタディツアー 425,000
	ミャンマー未使用資金 22,197,653
	②直接人件費 15,960,000
	ミャンマー 9,800,000
	国内 6,160,000
	共通管理費 1,000,000
	収支差額 15,998,022
全体	支出合計 226,294,149

私たちについて

【ミッション】

世界中のすべてのものの幸せを自分の幸せと感じられる人＝地球市民を育成していくため、地域づくりを通して、国際協力や国際交流事業を行っています。

【団体概要】

名 称 特定非営利活動法人地球市民の会

設 立 1983 年 7 月 (2002 年に法人取得、2010 年に認定 NPO 法人となる)

【活動対象国】

日本国内、ミャンマー、タイ、スリランカ、中国、韓国

【地球市民の会 主な褒章】

サントリー地域文化賞 (1988 年) / 国際交流基金地域交流振興賞 (1989 年) / 佐賀県功労者知事賞 (1994 年) / 自治大臣表彰 (1996 年) / 厚生大臣感謝状 (1996 年) / 外務大臣表彰 (2000 年) / にしぎんアジア貢献賞 (2003 年) / 地球倫理推進賞 (2006 年) / 文部科学大臣奨励賞 (2006 年) / かのり賞 (2017 年) / 社会貢献支援財団賞 (2017 年)

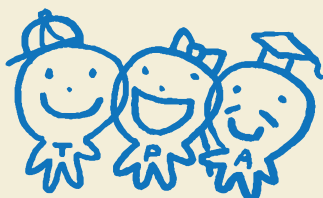


【全国のネットワーク】

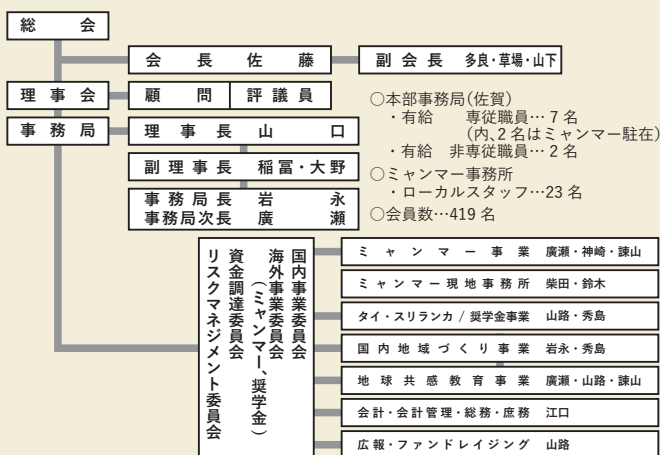
北海道地球市民の会 / 地球市民の会東京 / 地球市民ACTかながわ / 地球市民の会さぶ / 地球市民みえの会 / 神ノ戸有頂天倶楽部 / 愛媛地球市民の会 / 北九州地球市民の会 / 地球市民の会福岡 / (一社) アイ・オー・イー / 古賀英語・空手道場 / 夢の学校 / 障がい者ビジネススクールユニカレさが / 佐賀インターナショナル・ゲストハウスHAGAKURE

【地球市民の会 34 年の歴史】

1973 年 「佐賀フランス研究会」設立 (地球市民の会の前身)
 1980 年 「古賀英語道場・佐賀日仏文化会館」設立
 1983 年 「地球市民の会」設立
 1986 年 第 1 回小さな地球計画開始
 1987 年 日タイ協力事業開始
 1988 年 日韓交流プログラム「かちがらす計画」開始
 1990 年 地球市民奨学金開始
 1992 年 人間の持つべき文明「テラアビール」発表
 1993 年 地球共感シンポジウム、アジア太平洋協力会議 実施
 1995 年 地球市民運動全国会議実施、スリランカ協力事業開始
 2002 年 NPO 法人格取得
 2003 年 ミャンマープロジェクト開始
 2008 年 創始者 古賀武夫 逝去
 2009 年 人間の持つべき文明 2009「テラアビール 2009」提唱
 2009 年 佐賀市中山間地域づくり事業開始
 2010 年 国税庁より認定 NPO として認定
 2011 年 ASC2008 認証
 2011 年 東日本大震災復興支援事業開始
 2013 年 創立 30 周年記念・北澤氏講演会
 2015 年 ASC2012 認証
 2016 年 平成 28 年熊本地震支援事業開始
 2017 年 非営利組織評価認証
 2017 年 タイ地球市民奨学金終了



【組織図】※2018 年度



【役員】

永久名誉会長 古賀 武夫

名誉会長	山口 祥義	佐賀県知事
名誉副会長	秀島 敏行	佐賀市長
顧問	井戸 敏三	兵庫県知事
顧問	稲田 繁生	衆議院議員
顧問	今村 雅弘	衆議院議員
顧問	大草 秀幸	企画工房リプロ代表
顧問	大串 博志	衆議院議員
顧問	小原 健史	㈱和多屋別荘会長
顧問	小山 高生	脚本家/大阪芸術大学教授
顧問	坂井 学	衆議院議員
顧問	薩摩 和男	㈱美々卯社長
顧問	三遊亭歌之介	落語家
顧問	上甲 晃志	ネットワーク代表
顧問	中尾清一郎	㈱佐賀新聞社長
顧問	古川 康	衆議院議員
顧問	宮崎 耕治	国立大学法人佐賀大学学長
顧問	原口 一博	衆議院議員
顧問	平湯 慎介	平湯コーポレーション代表取締役社長
顧問	福岡 資麿	参議院議員
顧問	マリ クリスティン	エムキューブインターナショナル 有限会社
顧問	牟田 清敬	牟田法律事務所弁護士
顧問	山下 雄平	参議院議員
顧問	鷲崎 和徳	佐賀県地域交流部国際課課長
評議員	青柳 達也	株式会社 LbE Japan
評議員	有岡 大介	㈱サガテレビ 部長
評議員	大島 隆	和食処おおしま代表取締役
評議員	小松 敏正	小松商店 金属部代表
評議員	副島 正幸	潮音寺住職
評議員	高橋 良輔	青山学院大学 地球社会共生学部教授
評議員	田島 広一	田島興産株式会社代表取締役
評議員	平野 幸喜	NPO法人れんげ国際ボランティア会ミャンマープロジェクトディレクター
評議員	深川 千幹	小城市立晴田小学校 校長
評議員	藤 雅仁	株式会社七浦/道の 駅鹿島統括部長 / 事務局長
評議員	前田 英彦	長崎県松浦市役所
評議員	満岡 聡	満岡内科消化器科医院院長
評議員	峰 悦男	峰公認会計士事務所代表
評議員	宮地 大治	㈱佐賀電算センター代表取締役社長
評議員	百生詩緒子	JICA-OCCADEP 総括
会 長	佐藤 昭二	一般社団法人ふる里再生協会専務理事
副 会 長	多良 淳二	一般財団法人佐賀銀行文化財団事務局長
副 会 長	山下 雄司	(株)サガプリンティング専務取締役
副 会 長	草場 一壽	今心工房陶彩画家
理 事 長	山口 久臣	一般社団法人アイ・オー・イー代表理事
理 事 長	大野 博之	一般社団法人ユニバーサル人材開発研究所代表理事
副理事長	稲富 正人	佐賀県男女参画 / こども局長
理 事	五十嵐 勉	国立大学法人佐賀大学全学教育機構教授
理 事	古賀 大之	一般社団法人和スポーツクラブさが理事長
理 事	柴田 京子	認定NPO法人地球市民の会ミャンマー国代表
理事(兼任)	多良 淳二	一般財団法人佐賀銀行文化財団事務局長
理 事	田中 啓之	佐賀県県民環境部県民協働課主査
理 事	鶴田さゆり	佐賀県地域交流部国際課副主査
理 事	土井 敏弘	みどりや茶舗代表
理 事	成尾 雅貴	熊本県東京事務所所長
理 事	西村 一守	ProduceOfficeNishimuraPON代表
理 事	西村 尚子	ステンドグラス工房ガラスパレット主宰
理 事	増田 誠司	(株)増屋代表取締役
理 事	八田 康博	(有)八田工作所代表取締役
理事(兼任)	山下 雄司	(株)サガプリンティング専務取締役
監 事	田中 進	(株)佐賀電算センター代表取締役会長
監 事	小原 嘉文	嬉野温泉観光㈱代表取締役社長

○平成29年度をもって退任される役員

長期にわたり、地球市民の会を支えていただきありがとうございました。

顧問 井本 勇 学校法人佐賀清和学園理事長

いろいろなご支援を紹介

地球市民の会は皆様のご寄付によって支えられ、活動ができております。

会員、ご寄付、ふるさと納税、ボランティアなど、様々な方法で皆様のご協力を募っております。

地球市民の会の活動全般を支える

- | | |
|------------|-----------|
| ・ 正会員 | 月 1,000 円 |
| ・ 学生会員 | 月 500 円 |
| ・ 賛助寄付会員 | 月 1,000 円 |
| ・ 団体賛助寄付会員 | 月 5,000 円 |
| ・ 特別賛助寄付会員 | 月 5,000 円 |
| ・ 購読会員 | 月 250 円 |



ミャンマー、スリランカの子どもたちを支援する

地球市民奨学金

「さとおやさん」となっていただき、一対一もしくは複数で一人の奨学生を支えていただきます。奨学生からは手紙も届きます。さとおや会費は税額控除の対象となります。



古着/古切手/書き損じはがき

ご寄付をいただいた商品は販売したり、愛好家の方に買い取っていただくなどして換金し、子どもたちの教育のために使います。



Syncableバースデードネーション

スタッフの誕生日に合わせて寄付を募る仕組み。寄付の使い道は毎回異なります。

2017年度は2回実施し、ミャンマーの小学校修繕のための資金調達を行いました。



お宝エイド

貴金属やカメラなど自宅に眠るお宝商品を査定して、査定額に10%を上乗せした額が、アジアの子どもたちの奨学金支援に繋がります。



国内支援(国内事業、国際交流事業)



ふるさと納税

ふるさと納税を使ってNPOを支援できるのは佐賀県だけ！社会貢献をしながらお得に寄付ができる仕組みです。

ふるさと納税 地球市民の会 [検索](#)



遺贈寄付

遺言に基づき、亡くなった方の財産の一部や全部を寄付することを「遺贈」と言います。人生最期の社会貢献のお手伝いをさせていただきます。



ボランティア

平日、事務所での事務作業や切手の仕分け、イベントのお手伝いなどを募集しております。学生からシニア世代まで幅広い方々にお越しいただいております。来れる日に来て、数時間でもボランティアする形と長期間でボランティアを行う、インターンも受け付けております。

○寄付控除対象です

「認定NPO法人」であるため、地球市民の会へのご寄付は寄付金の税額控除となります。

※正会員・学生会員・購読会員会費は対象外です。



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

認定NPO法人 地球市民の会

〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町 3-10

※業務時間 / 土・日・祝を除く 9:00～17:30

TEL : 0952-24-3334 / FAX : 0952-26-4922

E-mail : office@terrapeople.or.jp

Website : <http://terrapeople.or.jp/>



地球市民の会



@tpasaga



chikyushiminnokai